

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション  
2026年3月期 第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

### 〈概要〉

- ◇開催日時：2026年2月4日(水)16:00～17:00
  - ◇内 容：2026年3月期 第3四半期決算状況
  - ◇説明者：取締役 CFO 松島 弘明

## ＜ご留意事項＞

この「質疑応答要旨」は、決算説明会での発言内容全てをそのまま書き起こしたものではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

### \*文中における略称・用語について

■会社名

- ・GY : 株式会社 GS ユアサ
  - ・GYEUR : GS Yuasa Battery Europe Ltd.
  - ・MMC : 三菱自動車工業株式会社

## ■ その他

- ・BEV : バッテリーEV
  - ・PHEV : プラグインハイブリッド車
  - ・HEV : ハイブリッド車
  - ・ESS : Energy Storage Systems

## 【質問①】

自動車用鉛蓄電池事業の業績が好調だが、3Q 単（10-12 月）決算期における一過性の要因について確認したい。

## 【回答①】

特別な要因があったという認識はない。引き続きタイ、ベトナムなど ASEAN は好調。英国に本社がある GYEUR を中心として、大陸向けも含めて補修向けの自動車電池の販売が好調であった。

**【質問②】**

今回通期を上方修正したが、自動車電池海外や車載用リチウムイオン電池事業部が4Qの計画値が前年同期比減益となる理由を教えてほしい。これまでの情報から見てもトルコが長らく苦戦しているということだが、構造改革などを考えているのか。

**【回答②】**

トルコ拠点で非常に厳しい状況が続いている。マイナス影響の継続期間は未定だが、今回の上方修正で一定のキップをはめた。車載用リチウムイオン電池に関しては4Q単体だけで見ると前年同期に一気に売価是正をした影響が大きいため、3ヶ月だけでなく通期で延べた形で確認をお願いしたい。

**【質問③】**

昨年4Q単の車載用リチウムイオン電池の好調は一過性だったということか？

**【回答③】**

昨年度は3Q累（4月-12月）までOEM様と交渉を重ね、4Q単で一気に刈り取ったという経緯があり、今期4Q単だけで比較するとその影響が出てしまっている状況。

**【質問④】**

配当と株主還元について、今回期末配当10円増額したこと、総還元性向は25%となったが、目標の30%にはまだ届いていない。現状の株主還元に対する考え方を教えてほしい。

**【回答④】**

おっしゃる通り、第六次中計の目標は総還元性向30%であった。現状は自己株式の取得がしづらい状況ということもある。今後のキャピタル・アロケーションを考えたときに、増配は会社のスタンスとしてできるということで今回10円増配を実施した。詳細は、4月か5月に予定している七次中計公表時にしっかり示したい。

**【質問⑤】**

政策保有株の売却は4Q単どれくらいあって、特別利益をどれくらい見込んでいるか教えてほしい。

**【回答⑤】**

今年度の政策保有株式売却は想定していた。昨年末に弊社が所有している三菱ロジスネクストがTOBを発表されている。弊社の応募有無は申し上げられないが成立する確率は高いと考える。もし成立した場合はスクイーズアウトが起こるため、この影響を織り込んでいる。この影響を考慮して、当初売却を予定していた政策保有株式は保留し、三菱ロジスネクスト株の売却影響を当期純利益に織り込んだ。当期純利益への影響は追加で20-30億円程度を想定している。

**【質問⑥】**

今回計画が上方修正されたが、米国 IRA の補助金は当初計画に入っていたのか？

**【回答⑥】**

当初計画にはなかった。そのため 190 億円で 10 億円の上方修正をした。

**【質問⑦】**

以前から説明されていた産業用電池電源の常用の期ずれの現時点の状況を教えてほしい。

**【回答⑦】**

産業用電池電源の常用の期ずれは、現時点で見通しがおおよそついた。約 50 億前後の案件が来期以降にずれた。利益面ではこの金額に 10% 前後かけてもらつたらよいと考える。

**【質問⑧】**

車載用リチウムイオン電池を 3 か月で見たときに、4 Q 単は前年度が好調という話があつたが、3Q 単の増減要因の説明がないのでわかりづらい。今何が起きているのかを解説してほしい。

**【回答⑧】**

当初計画と比較してホンダ様の物量が増加している。傾向としては特に変化なし。部品不足の影響は足元あるが、期初の想定からは増加している。一方、今回の減収の最大要因は MMC 様向けの PHEV 用リチウムイオン電池の物量が減ったことである。

**【質問⑨】**

PHEV は利益がなくとも数量で保障されていると理解しているが、3 Q の利益率が高いというのは一次要因が含まれているわけではないということ？

**【回答⑨】**

3 Q 単は OEM 様向けの売価の一括補正があつた。売価に反映している。

**【質問⑩】**

数量が良かったのは、YoY の HEV の物量によるもの？

**【回答⑩】**

ご認識の通り。製品の出荷が好調だったため、販売数量も良化した。

**【質問⑪】**

HEVについて OEM 側の生産は読めないと思うが、需要が高まる方向で生産物量を増やす計画だと思うが、思ったより OEM の生産がうまくいかず、HEV 向けの電池が想定より物量が少なかった場合など、何かしらの収益確保の策はあるのか？

**【回答⑪】**

物量に応じて売価設定をするという仕組みを一部の OEM 様に導入させてもらっている。あまりボラティリティがない形で進めていきたいと考える。懸念されている OEM 様が生産する車両台数は先が読みづらい状況ではあるが、世の中の状況を考慮すると HEV はしっかりと伸びていくだろうと思っているため、そのあたりの懸念は小さいことを我々も望んでいる。

**【質問⑫】**

産業電池電源が 3 か月、9 か月で見ても、前年度と比較して利益率が物足りないが、非常用が厳しいのか？この状況はどれくらい続くのか？来期は採算改善する見込みがあるのか？

**【回答⑫】**

今年度は利益率の低い案件が多かった。今後どうなるかはお客様の事情もあるため、読めないところもある。原子力、データセンター向けは引き続き堅調に推移すると考えるため、おっしゃる懸念は払しょくできるかと思う。

**【質問⑬】**

海外事業に関して米国 IRA の補助金の話が唐突に出てきたように感じたが、背景を教えてほしい。今後も継続するのか？

**【回答⑬】**

米国 IRA つまりインフレ抑制法について簡単に申し上げると、カーボンニュートラルに貢献するような製品群に米国政府が補助金を支給するというもの。対象製品に種類分けはなく、品目には「バッテリー」と書かれているため、米国の子会社がこの法令に対して申請をした。本件は、今のところ 2031 年まで一定の金額が収受できる見込み。

**【質問⑭】**

10 億円の補助金は、いつからいつまでの期間で得たのか？

**【回答⑭】**

2024 年度に製造販売したものが対象になる。

**【質問⑯】**

トルコが苦戦しているとはいって、4Q 単の海外の利益がなぜこんなに落ちるのかを説明してほしい。

**【回答⑯】**

トルコのリスクを厚めに見ている。トルコ市況は本当に苦しく、現地拠点の状況は非常に厳しい。今回の業績予想のキャップをはめた理由である。

**【質問⑯】**

車載用リチウムイオン電池、4Q 単の営業利益の見立てについて教えてほしい。

**【回答⑯】**

それほど大きな変化点はない。PHEV は継続して厳しい。HEV の数量は増えるため増産するための製造ラインが動き、償却負担が増えてくると見込んでいる。

**【質問⑯】**

レアアースの影響のリスク見立てを教えてほしい。

**【回答⑯】**

全く使ってないということはない。黒鉛などは中国から輸入している。この影響が長引くと当社にも影響が出てくると思われる。ただこの影響は当社に限ったものではない。国内のレアアース、レアメタルの在庫は相当数あると聞いているため、短期的には影響は出ないが、長引くようであれば多少なり影響が出る可能性はあるという認識。

**【質問⑯】**

レアアースは現在確保しづらいのか、在庫はどれ程度あるのか？

**【回答⑯】**

確保しづらいということない。サプライヤー様で在庫を確保してもらっている。来期通期で在庫が持つかどうかは確認できていないが、ある程度の期間は問題ないと認識。

**【質問⑯】**

産業電池電源について、蓄電所ビジネスの好影響は来期も続くのか？

**【回答⑯】**

当面ニーズが継続する。再エネ変動抑制ができる蓄電池需要はまだまだ伸びを見込んでいる。

**【質問⑩】**

産業電池電源を中心とした来期のけん引ファクターは？

**【回答⑩】**ESS がけん引。非常用はデータセンター向けの需要が旺盛。販売も伸びていく見込み。

**【質問⑪】**

常用より非常用のほうが高い利益率なのか？

**【回答⑪】**

案件ごとの利益率は非常用が高い。常用は購入後のメンテナンスサービスをサブスクで契約していただくことも多々あるため、その部分でも稼いでいきたいと考える。

**【質問⑫】**

系統用・非常用・防衛も含め、今後のキャピタル・アロケーションはどうしていくのか？

**【回答⑫】**

詳細は4月から5月に予定している7次中計で公表予定。現状はESS向けの生産能力が極めて限定的。早急に新しい工場を構えて供給体制を強化する。非常用はデータセンター向け需要が伸びるが、既存の生産体制での対応が可能。防衛向けは申し上げづらいが、今後確実に対応できるような方向性で考えている。

**【質問⑬】**

自己株式の取得はなぜやりづらいのか。

**【回答⑬】**

2023年度に公募増資を実施した。足元で公募増資をしながら自己株式の取得をするのはあまり現実的ではない。今後キャピタル・アロケーションを見直す中で、検討材料に入るかもしれないが、現時点では検討していない。

**【質問⑭】**

ポートフォリオの選択と集中の検討状況を教えてほしい。

**【回答⑭】**

現状のセグメントの中でROIを回収できるところを見極め、しっかりと成長するための投資をしていきたいと考えている。現在まさにこの辺りを検討しているため、第七次中計で示す。

以上